

欧州燃油規制で取引価格指数

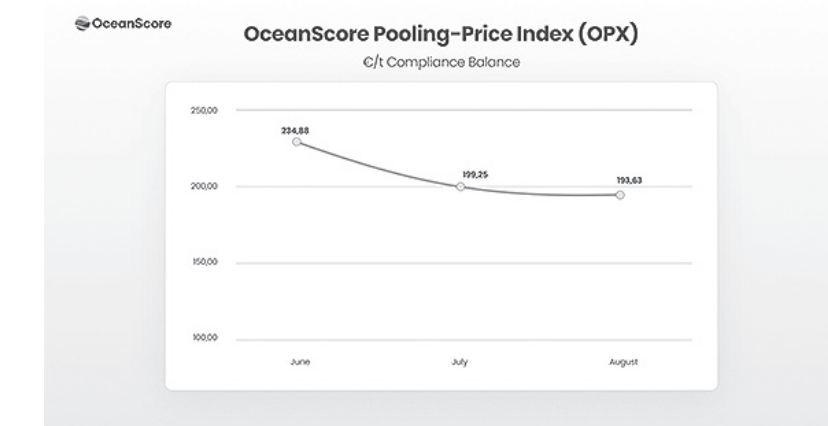
■ オーシャンスコアが公表、足元は下落傾向

船舶の環境規制への適用管理ソリューションを提供するオーシャンスコアは、欧州の燃料油規制 FuelEU マリタイムに対応した排出取引の価格指数「OPX (OceanScore Pool-Price Index)」の公表を開始した。8月28日、オンライン会見で発表した。業界初のベンチマークとなり、海運会社の規制対応戦略の立案や契約交渉の参考になるよう公表する。足元は取引価格が下落傾向にあることも明らかになった。

FuelEU マリタイムは、欧州発着の航海で利用した船舶燃料に対し GHG 強度の上限を設ける規制だが、規制を達成した船から達成できていない船に対して余剰分を融通して相殺できる「プーリング」という仕組みがある。海運企業間では余剰分の売買が始まっており、オーシャンスコアはこの取引価格動向をインデックスとして毎月算出・公表する。

指数 OPX は、二酸化炭素 (CO₂) 換算1トン当たりの加重平均取引価格 (ユーロ建て) で示す。公表は1カ月に1回で、発表頻度は高めていく予定。

価格指数は、海運会社がバイオ燃料を利用するかプーリングを使うか、といった規制達成戦略の判断や、価格推移を把握して取引タイミングを見極めるための判断基準に利用できる。また用船や運賃の交渉に際し、規制コストのベンチマークとしても活用できる。オ



取引指数 OPX の推移

ーシャンスコアのアルブレヒト・グレルCEOは「透明な指標がないことが、これまで FuelEU 対応における最大の障害だった。OPX の公表により、今後は公正で科学的な指数を基に判断できるようになる」とねらいを語り、「指数の計算方法やデータ出典はすべて開示しており透明性が高く、当社が売買に直接関わらないため指数操作のインセンティブもなく純粋に市場データを反映した公平で中立な指数になっている」と説明する。

オーシャンスコアは今春から、FuelEU の GHG 排出の余剰分を持つ企業と不足する企業が直接相対で取引を行える「マーケットプレイス (取引市場)」サービスを開始している。売り手が規制余剰分を提示し、買い手が複数比較のうえで直接取引するもの。価格・数量・支払条件はすべて可視化され、オーシャンスコアは手数料やマージ

ンは取らない。MSC やアングロ・イースタン、V シップス、飯野海運など大手企業をはじめ100社以上が利用を開始しており、現状では CO₂ 換算で5万トン以上の規制余剰分の売買が常時可能な状況。参加企業の増加によって市場効率性が高まっているという。OPX は、このサービス内での取引価格を基に算出される。

8月時点での OPX は193.6ユーロで、算定を開始した6月の234.9ユーロから下落傾向にある。現時点では、FuelEU 規制の達成には、罰金を支払うことやバイオ燃料を利用するより、プーリングを利用することが最も安価な状況となる。グレルCEOは「今後 OPX がさらに大幅下落する余地は少ないと予想しており、12月から翌年初めにかけては需要増加が見込まれるため価格は上昇に転じる可能性がある」との見通しも示した。

川崎重工、潜水艦エンジンでも検査不正の可能性

川崎重工業は8月29日、船用エンジンの燃費性能に関する検査不正について、潜水艦用エンジンの一部型式でも不正が行われていた可能性があるとして発表した。外部弁護士で構成する特別調査委員会の調査結果を受け、防衛省に報告した。

同社は2024年8月に発覚した船

用エンジンの検査不正を受け、グループ全体で類似事案の有無を調査中。2021年までに製造された潜水艦エンジンの一部型式でも検査不正の可能性があると、今年6月に同委員会から調査協力の要請があった。同社も協力し、委員会が詳細調査を実施。結果、検査

不正を行っていた可能性がより高まったとの連絡を8月に受け、防衛省へ速やかに伝えた。

最終報告は調査完了後に公表する。業績への影響については、今後の調査結果を踏まえ、影響が見込まれる場合には速やかに報告するとしている。